

2022年3月期 第2四半期 決算説明資料

 ユシロ化学工業株式会社 TYO 5013

2021年11月



A dynamic splash of water droplets and liquid against a light green background, positioned in the upper right quadrant of the slide.

2022年3月期第2四半期 連結決算業績概要

Results

2022年3月期第2四半期 連結業績概要

- 売上高は、主要顧客である自動車メーカーで半導体不足の影響があったものの、自動車部品メーカーの順調な回復で、前年同期比27.7%の増収。
- 営業利益は、前年同期の赤字から793百万円増益。
- 経常利益は、営業利益の増加に加え持分法投資利益が増加したことで、982百万円増益。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、特別利益の計上もあり、759百万円増益。

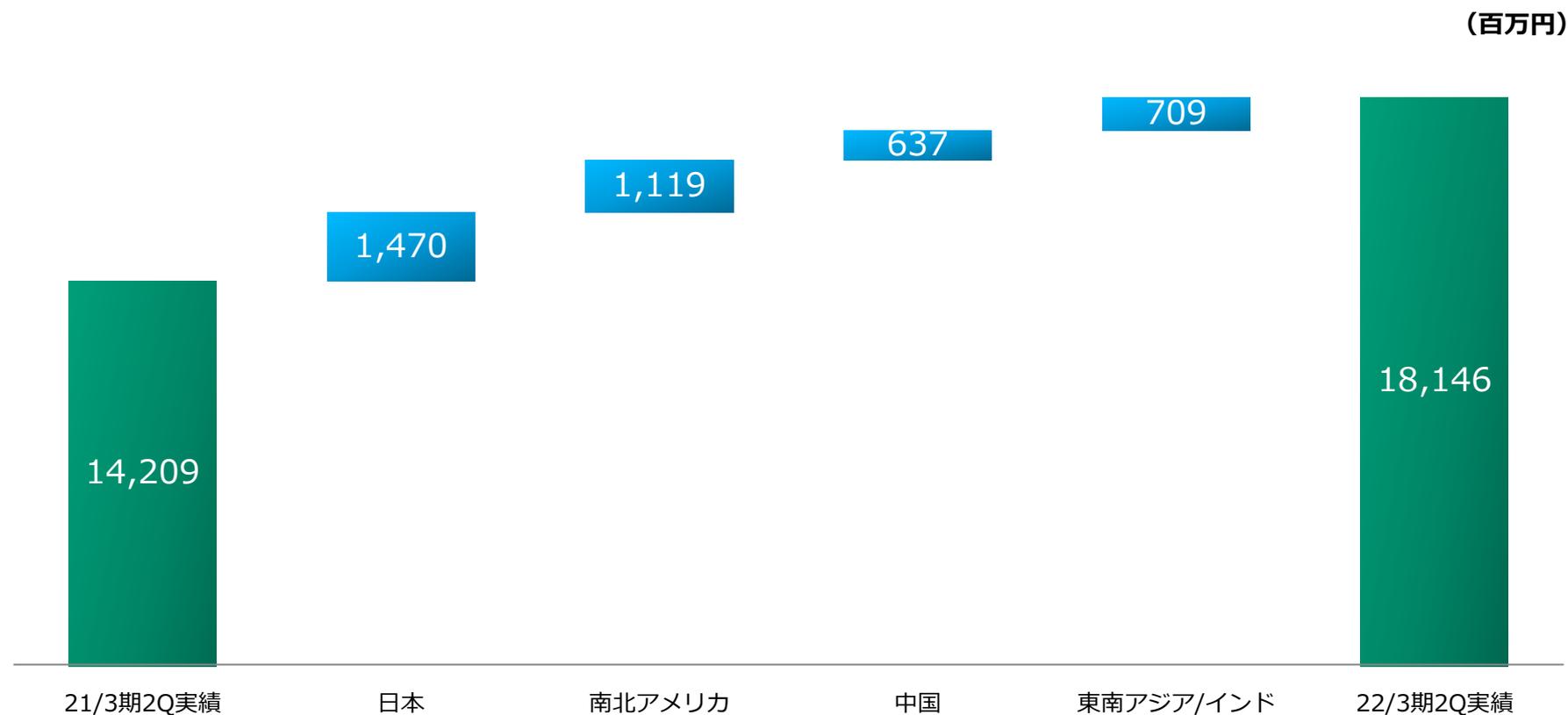
(百万円)

	21/3期2Q	22/3期2Q	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	14,209	18,146	+3,937	+27.7%
営業利益	△72	720	+793	—
経常利益	80	1,063	+982	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	29	789	+759	—

※経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益の対前期増減率は、1,000%以上となるため「-」と記載しています。

2022年3月期第2四半期 セグメント別売上高増減

- 各セグメントとも、主要顧客の自動車メーカーで半導体不足の影響はあったものの、前年同期比で、大きく売上高を伸ばす。

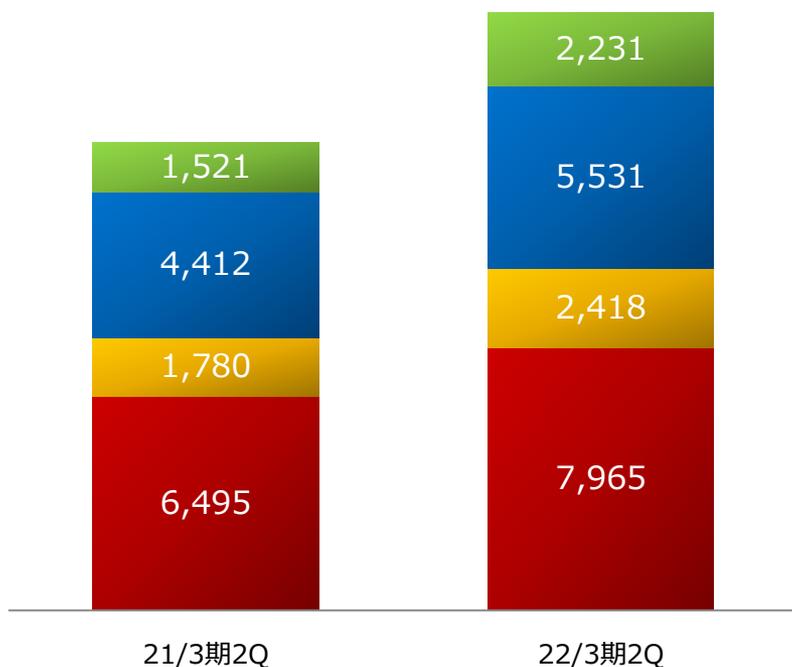


2022年3月期第2四半期 地域別売上高

- 国内：主要顧客である自動車部品メーカー等の順調な回復により増収。
- 海外：前年同期のコロナウイルス感染症による落ち込みからの回復は各国により差があるものの、全てのセグメントで大きく増収。

セグメント別売上高（百万円）

■ 日本 ■ 中国 ■ 南北アメリカ ■ 東南アジア/インド

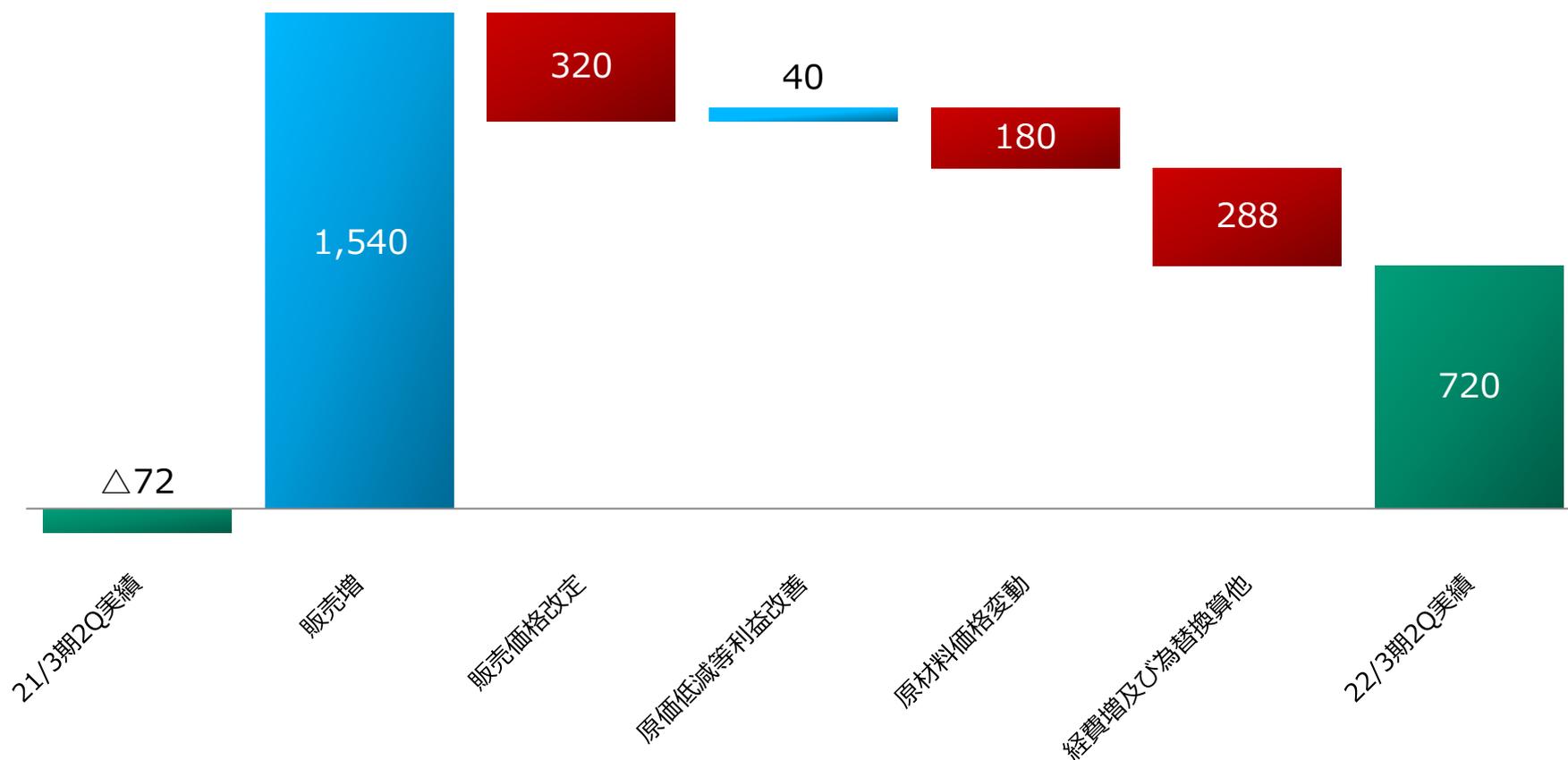


拠点別売上高（百万円）

拠点	21/3期2Q	22/3期2Q	増減率	
日本	7,186	8,867	+23.4%	
アメリカ	アメリカ全体	3,861	4,602	+19.2%
	うちクオリケム社	2,542	2,827	+11.2%
メキシコ	363	543	+49.5%	
ブラジル	273	519	+90.1%	
中国	2,065	2,667	+29.1%	
タイ	689	922	+33.8%	
マレーシア	322	468	+45.0%	
インド	200	407	+103.1%	
インドネシア	395	567	+43.5%	

2022年3月期第2四半期 営業利益増減要因分析

- 販売価格の改定、売上増による経費増の減益要因があったものの、主要顧客である自動車メーカーの順調な回復が、当社の販売増に繋がり大きく増益。

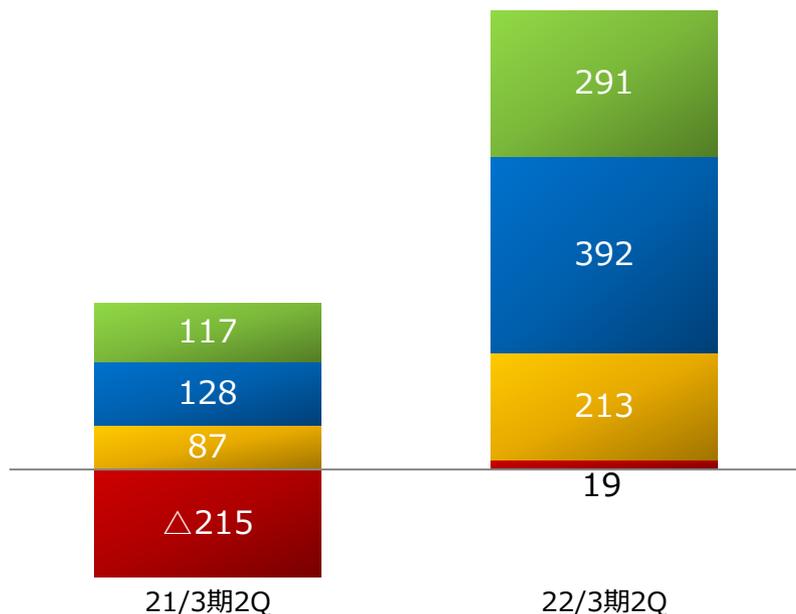


2022年3月期第2四半期 地域別営業利益

- 国内：増収により損失額が縮小し、セグメント利益では黒字回復。
- 海外：人件費が上昇したクオリケム社は若干減益も、その他の拠点は増益。各セグメント利益も大きく回復。

セグメント別営業利益（百万円）

■ 日本 ■ 中国 ■ 南北アメリカ ■ 東南アジア/インド



拠点別営業利益（百万円）

拠点	21/3期2Q	22/3期2Q	増減率	
日本	△358	△127	—	
アメリカ	アメリカ全体	178	341	+90.8%
	うちクオリケム社	135	132	△2.1%
メキシコ	18	45	+145.6%	
ブラジル	△23	64	—	
中国	116	246	+110.4%	
タイ	89	150	+68.6%	
マレーシア	25	56	+122.6%	
インド	△7	29	—	
インドネシア	70	123	+75.1%	

2022年3月期 連結業績予想

Forecast



©2021 YUSHIRO CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.
All Rights Reserved.

2022年3月期 連結業績予想

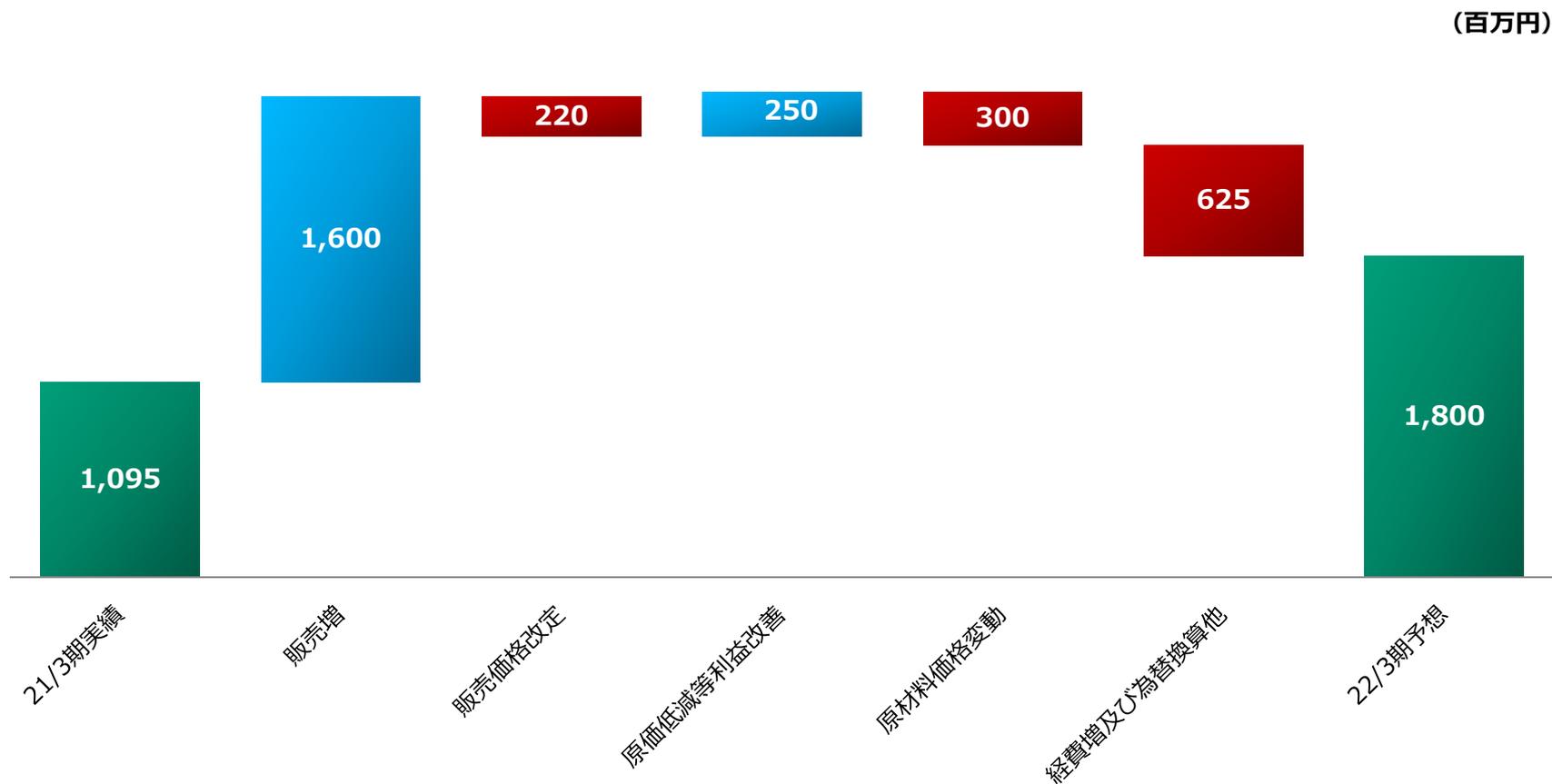
- 売上高：主要顧客の自動車メーカー等では半導体不足の影響はあるものの、概ね予想通りを見込む。
- 営業利益：原材料価格上昇はあるが増収効果により増益を見込む。

(百万円)

	21/3期実績	22/3期予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	31,661	36,000	+4,338	+13.7%
営業利益	1,095	1,800	+704	+64.3%
経常利益	1,517	2,100	+582	+38.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	978	1,300	+321	+32.9%

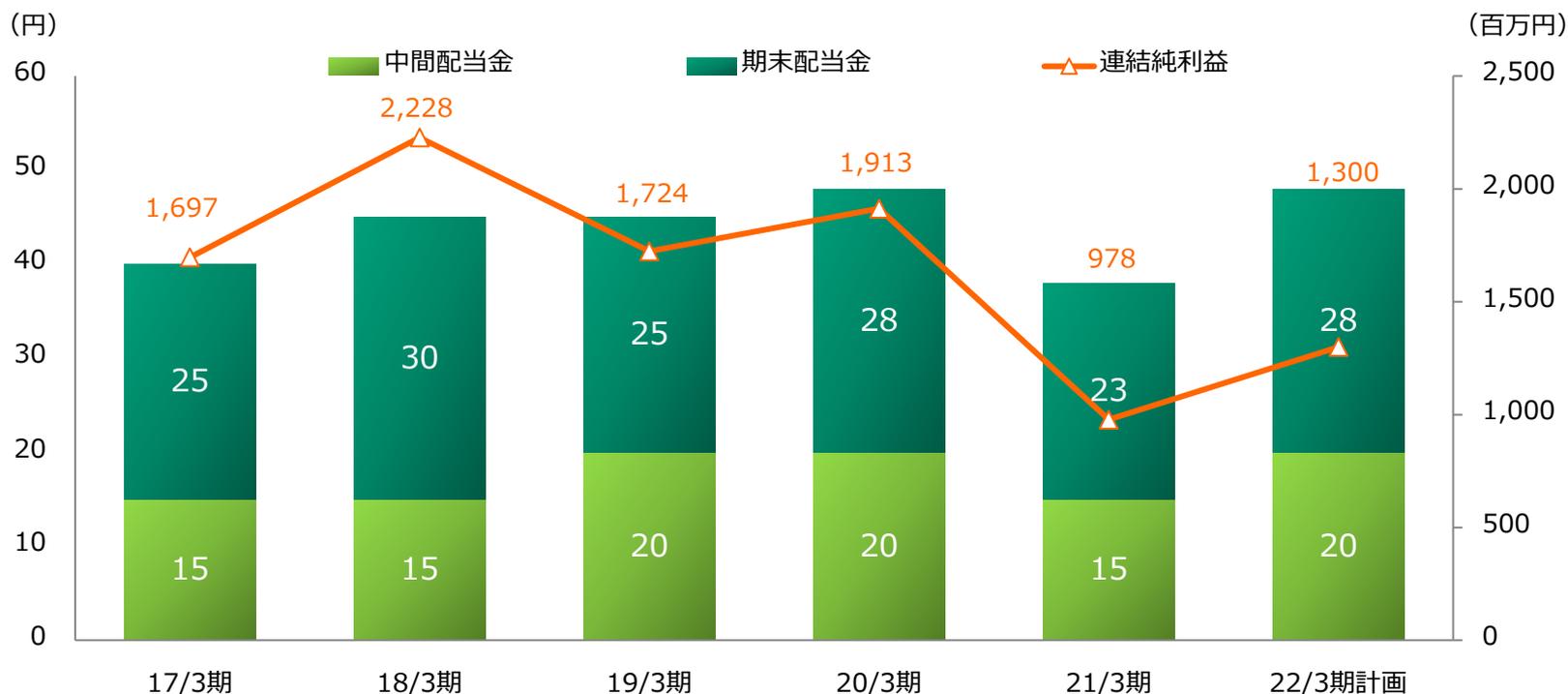
2022年3月期 営業利益増減要因分析

- 販売価格改定、原材料価格変動、経費増及び為替換算他のマイナス要因はあるものの、国内及び海外の自動車生産台数の回復に伴う販売増及び原価低減等利益改善の推進により、増益を見込む。



株主還元

- 株主に対する利益還元を経営の重要施策とし、安定的・持続的に配当を行い、連結配当性向を30%以上とする。



配当性向 (連結) 32.2% 27.4% 35.4% 34.1% 52.8% 50.2%

純資産配当率 (連結) 2.0% 2.1% 2.0% 2.2% 1.7% 2.0%

1株当たり配当金 40円 45円 45円 48円 38円 48円



当資料取扱い上の注意

当資料に記されたユシノの現在の計画・見通し・戦略等のうち歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られたユシノの経営者の判断に基づいた、将来の業績に対する見通しであります。従いまして、これら業績の見通しのみにより全面的に依拠されることは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与え得るリスクや不確定な要素には、以下のものが含まれます。

- ①ユシノグループの事業環境を取り巻く世界情勢
- ②世界の原油価格動向
- ③米ドルを中心とした為替レートの変動
- ④偶発事象 等

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確定な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでユシノをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。